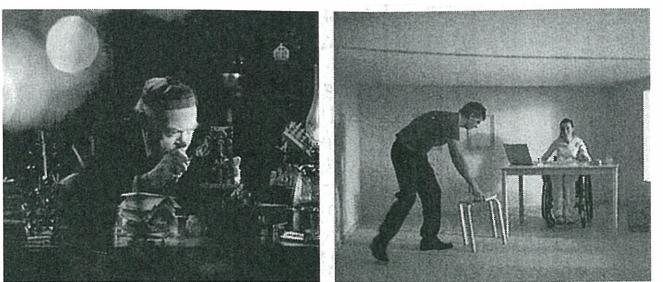


文化映画紹介 渡部実

「第10回日本と世界の優秀企業映像を見る会」レポート その2



「THE OLD WINDMILL SHOP」
a film by Pieter Rim de Kroon

「Accessibility Now」

院の受付に健常者の女性が両親の補助金のことを聞きに来る。すると受付の男性は補助金のレベルを記した小冊子が手に入ったと、それを差し出すが、全て点字で書かれている。女性は目が見えるが点字は読めないと言ふ。すると男性は週に一回、点字の解説サービスをしているが、来週はもう

予約が一杯です、と対応。女性はそんなに待てない、「健常者が読める情報も用意してよ」と業を煮やし、「善処いたします」との返事で終わる。

この2編の話からなる作品は障害者の立場から社会を描いている。そう見ると求人広告の話でも「皆と同じように働けるかしら?」との言葉は、普通、健常者が障害者に対して抱いている偏見を言葉にしたものようである。この短編はパリアフリーや、ノーマライゼーションの必要性を障害者の側から描いたものとして強い訴求力があった。

魅力的なデ・クーロン監督の作品

今回の上映会でひとときわ期待されたものに、オランダのピーターリム・デ・クーロン監督の2本の新作上映があった。デ・クーロン監督の本格的な日本登場は「オランダの光」(03年／本欄1392号掲載)であった。オランダ独自の自然光を探求する魅力的な長

編ドキュメンタリー映画で、本作によつてデ・クーロン監督の存在は広く日本でも知られることとなつた。ともと彼はCM作品なども精力的に製作・監督をしており、今回は2本の短編の新作CMが上映された。

まず「THE OLD WINDMILL SHOP」(オランダ／企画・Nolet Distillery／製作・De Kroon, Wissenraet & Associes B.V. 9分)。これはオランダの風物として有名な風車への愛情を歌い上げた作品のようにも見える。街にある玩具店。夕方、老店主がいつも愛玩している人形や風車に別れを告げ、帰宅する。すると無人の店内にはいつしか人がいないのに風車が回り人形たちが踊り出す。古い映写機が回りサイレント映画が映り出す。オモチャたちの造形と色彩が音楽、そして編集の妙味で楽しい饗宴へと誘う。店内は遊園地のようだ。そして、夜が明け、再び店主がやって来る。オモチャたちはもとの場所に戻り、店内は何事も

の古き時代からいかにしてケテル社は何代にもわたりウォッカを作り会社を発展させてきたか、その社史が絵巻物のように展開する。カット、カットも斬新であり、デ・クーロン監督の演出は緻密で一瞬たりとも目を離すことが出来ない。しかも「THE OLD WINDMILL SHOP」と同じく、商標の出し方が実際にスマートである。

今回上映の企業映像はいずれも、短編映像作品を共に、この「GENERATIONS」のように、これだけ多くの製作費と大規模な撮影を行ひながらも、結局、そのエネルギーはラストに収斂していくという、その贅沢さを感じさせた。映像表現において贅沢とはこのような諸作品のことを言うのではないか。実際に面白く参考になつた上映会であった。(問合せ) 映像文化製作者連盟事務局 TE L 03-3279-023

今号も前号に引き続いて、昨年の暮年に開催された

「映文連アワード2007

(主催・社) 映像文化製作者連盟)と同時開催された「第10回日本と世界の優秀企業映像を見る会」(主催・同連盟)のレポートの続きをお伝えしたい。

本欄の文化映画と同じく、

わが国では短編映画(映像)作品を紹介し上映する

機会が極めて少ない。短編

映画といつても、それこそ

様々な分野を描いた個性的

な作品があまたあり、その

多彩さは一般劇映画にはな

かなか見られないものであ

る。さらに日本の短編映画

と外国の短編映画とは個性

や特徴が著しく異なつてい

る。具体的にいえば、前回

紹介した企業やフランス水

道局の企画になる作品など、

3~4分の短い時間に長編

映画のみの構想と製作費を

つき込んでいる。その一方、

短編映画は時間との勝負で

ある。そこには優れたアイ

デアが必要とされる。しか

も外国の短編映画はそのア

イデアが作品の全てを支配

するほどに徹底されて使わ

れている。

今回、まず初めに紹介す

るのは「Accessibility Now」

(スウェーデン／企画・

Handsam／製作・Webit.

Today AB, Animach AB

3分30秒)。これは障害者

と健常者の共生をアピー

ルした作品。スウェーデン

政府が障害者と健常者との

問題を考える会議を開催し

た際に上映されたという。

これはアイデアというか、

発想が斬新であった。

舞台はある部屋の一室。

「従業員求む」との求人広

告が張り出されている。そ

こに「ここで働くかけてくだ

さい」と青年が入室してく

る。だが、どうもその部屋

は普通と違う。天井が低い

のだ。普通の背丈がある青

年は頭を天井にぶつけない

年は頭を天井にぶつけない

車イスを使つていいないな

らそれに座つて」と側のイ

スを指す。そう、この求人

広告を出した会社の従業員

は殆どが障害を持つていて、

部屋の天井が低いのも車イ

スに座った人の座高を考え

て設計されたものなのであ

る。人事の女性は青年に「皆

と同じように働くかしら?

皆と同じ給料は出せ

ないわ。少し安くなるけどいいかしら?」と心配そう

に聞く。

青年は社内で各部署への

郵便の配達の仕事をする。

身が不自由さを経験してし

まう。転倒した青年を見て

車イスの女性たちは「彼に

は手助けが必要ね」と同情

する。やがてヘルメットを

被り頭をぶつけることも少

なくなつた青年を見て女性たちは「少し慣れたみたい

い」と安堵する。画面には

車イスを使つていいないな

らそれに座つて」と側のイ

スを指す。そう、この求人

広告を出した会社の従業員

は殆どが障害を持つていて、

部屋の天井が低いのも車イ

スに座つた人の座高を考え

て設計されたものなのであ

る。人事の女性は青年に「皆

と同じように働くかしら?

皆と同じ給料は出せ

ないわ。少し安くなるけどいいかしら?」と心配そう

に聞く。

青年は社内で各部署への

郵便の配達の仕事をする。

身が不自由さを経験してし

まう。転倒した青年を見て

車イスの女性たちは「彼に

は手助けが必要ね」と同情

する。やがてヘルメットを

被り頭をぶつけることも少

なくなつた青年を見て女性たちは「少し慣れたみたい

い」と安堵する。画面には

車イスを使つていいないな

らそれに座つて」と側のイ

スを指す。そう、この求人

広告を出した会社の従業員

は殆どが障害を持つていて、

部屋の天井が低いのも車イ

スに座つた人の座高を考え

て設計されたものなのであ

る。人事の女性は青年に「皆

と同じように働くかしら?

皆と同じ給料は出せ

ないわ。少し安くなるけどいいかしら?」と心配そう

に聞く。

青年は社内で各部署への

郵便の配達の仕事をする。

身が不自由さを経験してし

まう。転倒した青年を見て

車イスの女性たちは「彼に

は手助けが必要ね」と同情

する。やがてヘルメットを

被り頭をぶつけることも少

なくなつた青年を見て女性たちは「少し慣れたみたい

い」と安堵する。画面には

車イスを使つていいないな

らそれに座つて」と側のイ

スを指す。そう、この求人

広告を出した会社の従業員

は殆どが障害を持つていて、

部屋の天井が低いのも車イ

スに座つた人の座高を考え

て設計されたものなのであ

る。人事の女性は青年に「皆

と同じように働くかしら?

皆と同じ給料は出せ

ないわ。少し安くなるけどいいかしら?」と心配そう

に聞く。

青年は社内で各部署への

郵便の配達の仕事をする。

身が不自由さを経験してし

まう。転倒した青年を見て

車イスの女性たちは「彼に

は手助けが必要ね」と同情

する。やがてヘルメットを

被り頭をぶつけることも少

なくなつた青年を見て女性たちは「少し慣れたみたい

い」と安堵する。画面には

車イスを使つていいないな

らそれに座つて」と側のイ

スを指す。そう、この求人

広告を出した会社の従業員

は殆どが障害を持つていて、

部屋の天井が低いのも車イ

スに座つた人の座高を考え

て設計されたものなのであ

る。人事の女性は青年に「皆

と同じように働くかしら?

皆と同じ給料は出せ

ないわ。少し安くなるけどいいかしら?」と心配そう

に聞く。

青年は社内で各部署への

郵便の配達の仕事をする。

身が不自由さを経験してし

まう。転倒した青年を見て

車イスの女性たちは「彼に

は手助けが必要ね」と同情

する。やがてヘルメットを

被り頭をぶつけることも少

なくなつた青年を見て女性たちは「少し慣れたみたい

い」と安堵する。画面には

車イスを使つていいないな

らそれに座つて」と側のイ

スを指す。そう、この求人

広告を出した会社の従業員

は殆どが障害を持つていて、

部屋の天井が低いのも車イ

スに